

# 大阪と奈良を結ぶ日本最古の官道 竹内街道

堺から松原、羽曳野、太子を抜けて葛城、そして飛鳥へ

## 時代とともに役割を変えた街道

竹内街道の起源は、推古天皇21年(613)に整備された「大道(だいでう)」にあります。難波と飛鳥の京(みやこ)を結び、日本最古の官道となったこの道とはほぼ重なる竹内街道は、時代に応じて役割を変えてきました。飛鳥と大陸との行き来を担う「外交の道」、聖徳太子信仰を支える「信仰の道」、物資を運ぶ「経済の道」——。現在もなお国道166号として大阪と奈良を結んでいます。



線香たてに刻まれた道標 松原市岡の道標

## 進取の気風に富む商都、堺を歩く

街道は、堺の大小路(おおようじ)から始まります。人でにぎわうこの辺りには、商都として栄えたかつての活気が今も感じられます。

貿易の拠点であった堺は中世期に大きく発展。日明貿易や南蛮貿易で堺商人が大活躍し、まちの運営

も豪商たちが組織した合衆が行いました。堺に残る進取の気風は、このころに培われたのかもしれない。中世期末、自治都市・堺と大和をつなぐ「経済の道」として、竹内街道は重要な意味をもちました。

## 二上山を望み万葉に想いを馳せる



大阪と奈良の境に位置し、雄岳・雌岳からなる二上山。「ふたかみやま」とも呼ばれ、その山容の美しさはたびたび歌に詠まれました。現在でも登り口から雌岳頂上広場の間には、アセビやハギなど万葉集に詠まれた花が四季折々に咲き誇ります。雄岳の頂上には悲劇の皇子・大津皇子(おおつのみこ)の墓もあり、万葉の世を今に伝えています。



大津皇子の墓



岩屋峠の石窗

雌岳に向かう途中にある岩屋峠を越え中將姫(ちゅうじょうひめ)ゆかりの當麻寺へ。當麻寺には、出家した姫が一夜で織り上げたといわれる當麻曼陀羅(たいまんだら)が残されています。曼陀羅を織り上げたあと聖衆來迎(しょうじゅうらいごう)し、中將姫が極楽往生したという伝説は、毎年5月14日、當麻寺の練供養会式(ねりくようえしき)で再現されます。



當麻寺

飛鳥時代、竹内街道は飛鳥と大陸をつなぐ「外交の道」でした。大陸からの渡来人や大陸を目指した遣隋使や遣唐使たちは、二上山を仰ぎながら何を想ったのでしょうか。

たけのうちかいどう

## 司馬遼太郎氏が愛した道を行く



司馬氏の小説の風景

竹内峠を過ぎると、風情ある家並みが続く竹内集落にいたります。作家・司馬遼太郎氏は、幼いころ、母親の実家のあるこの辺りをよく訪れていました。紀行シリーズ「街道をゆく」の竹内街道の項には、「昭和18年の秋、竹内への坂を登ってゆく、その坂の上の村はずれから、自転車でころがりおりてきた、赤いセーターの女性が、すれちがいざま、私に微笑し、いまでも、その笑顔をおぼえている。」との記述もあり、この集落に対する氏の想いの深さが伝わります。

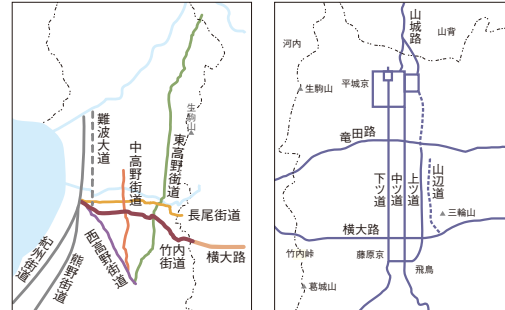
集落をすぎ「長尾の森」に鎮座する長尾神社の前へ出ると、ここからは昔の人も目指した飛鳥の地はもうすぐです。

## 竹内街道を歩く

国家が繁栄していくために「道」はかせないものでした。穀物や魚や獣の肉、織物など、「物」であった頃から「貨幣」まで、形は変わっても国を営むのに必要な「税」を集めるため、また、国の安全を守るための軍事的な目的としても「道」は使われてきました。そして、国が発展していくにつれ、「道」をつかってさまざまな場所から「人」や「物」、「文化」(情報)が集まってきたのです。

多くは土の中に埋もれ、周りの風景は変わっていきましたが、古道を歩くと、私たちの祖先が創りあげ、今も私たちの生活の中に受け継がれている「なに」かを感じることができます。

### ●竹内街道と交わる街道(大阪府域) ●大和の古道(奈良県)



### ☆各地の観光のお問合わせ

堺市 観光部	TEL:072-228-7493
松原市 市民生活部産業振興課	TEL:072-334-1550
羽曳野市 生活環境部産業振興課	TEL:072-958-1111
太子町 まちづくり推進部地域整備室 にぎわいまちづくりグループ	TEL:0721-98-5521
葛城市 産業観光部商工観光課	TEL:0745-48-2811
橿原市 観光課	TEL:0744-22-4001

### ☆街道歩きには、地元のボランティアガイドに案内をお願いはいかがですか?

NPO法人 堺観光ボランティア協会	TEL:072-233-0531
観光ボランティア 太子街人(がいど)の会	TEL:0721-98-5521
羽曳野市ボランティアガイド	
フィールドミュージアムトーク史遊会	TEL:072-954-4205
葛城市観光ボランティアガイドの会	TEL:0745-48-4611

- ・本マップは平成24年2月現在のデータをもとに作成しています。変更されている場合もありますので、お出かけの前にはあらかじめご確認ください。
- ・安全にウォーキングを楽しむために
  - ※交通ルールを守り、車両などには十分注意してください
  - ※住まれている方、他の通行者の迷惑にならないようにしてください
  - ※たばこの吸殻、ペットボトル、空き缶などゴミは持ち帰りましょう
  - ※文化財は大切にしましょう。また自然を守るため、植物の採取などはしないでください

### お問い合わせは

歴史街道推進協議会事務局  
TEL.06-6223-7745

このマップは、NPOゴダイ、大阪府、奈良県が作成したデータの提供をうけ、関係市町村、団体の協力を得て改定・制作したものです。



# 竹内街道

## ◎大和八木駅、畝傍御陵前駅周辺



## ◎八木札の辻

万葉集で知られる天香具山、畝傍山、耳成山の和歌山三山を結ぶ三角の中にある八木の町。横大路と下ツ道が交差するかつての交通の要所です。近世、街道筋として大いににぎわい、高札場があったことから、札の辻とされるようになりました。

## ◎東・西の平田家

八木札の辻を挟んで東側と西側に平田家があります。江戸時代に栄えた街道筋に残る「旅籠」の遺構です。現在と変わらず南側が入母屋造りで2階の街道筋には手摺が残っていることから、江戸時代の地誌である「西国三十三所名所図会」に描かれている旅籠は、平田家であることが窺えます。

### ◎横大路

奈良盆地を真東西に結ぶ道。難波から飛鳥京、藤原京などを結ぶ古代の官道をもとに近世には、大坂からや西日本各地から難波津で船を降りた人の伊勢参りへの道として賑わいました。

大坂と大和国との商業流通の生活の道でもあり、大坂側では、竹内街道につながり、奈良盆地南部を東西に一直線に結んで初瀬街道に通じています。

### ◎下ツ道

藤原宮跡の西側から北へ平城宮跡に向かい一直線に伸びる道。道の南端は全長318mの前方後円墳・見瀬丸山古墳の北側。札の辻で横大路と交差し、大和郡山市の観音寺に至ります。ここは平城京の羅城門跡があるところです。

